



「シイタケは今が盛りです」

連休を前にした4月21日、鳥居の正路正敏さん（40歳）の所では、シイタケの収穫=写真=に追われていました。「シイタケは今が最盛期で、猫の手も借りたいほど大忙しのでんてこ舞い」と、片腕でもある父親の正明^{まさあき}さんは語ってくれました。

正路さんは、天候に左右されない栽培方法を取り入れ豊作・凶作の格差に悩まされることなくと平成8年度、特用林山振興総合対策事業を導入し東北では初めてという設備で、シイタケ栽培を始めました。このことによって村のシイタケ栽培を営む林家や農家に、弾みがつけば何よりうれしいですと目を細めながら話してくれました。



「うわあー、ヘリコプターの風で耳と髪が飛ばされる」

十六回目を迎えた「緑の村こどもまつり」が五月四日、五日の両日、鳥居の緑の村緑地広場を主会場に行われました。四日は桜の花びらも震えるような肌寒い天候で、出足は今一つでしたが、それでも五日は陽気も戻り二千人以上の家族連れが押し寄せ、ウルトラマンショーやアイテムスリング大会など、イベントを楽しんでいました。中でも、導入してから二回目となるヘリコプターの体験搭乗「写真」は大人気で、約三百人の人たちが遊覧飛行を楽しみました。



大同二（八〇二）年開山といわれる鵜鳥^{うのとり}神社の例大祭が五月一日（旧暦四月八日）行われ、

鵜鳥神社の例大祭に祈願

平日にもかかわらず村内はもとより、三陸沿岸各地から訪れた多くの参拝者でにぎわいました。（写真上）。

同神社は大漁、海上安全、縁結び、安産の神として古くから信仰を集めています。漁業関係者の人たちは、この日を待ち望み大漁の願いを込めて真剣に遥拝殿に手を合わせます。最後に一杯酌み交わし祈りを込めます。皆さんに、神のご加護がありますように（写真）。

